

RYC GLOBAL TEAM RACE REGATTA 2019

出場報告書



2019年9月

J S A F代表チーム

1. はじめに

JSAF 並びにご関係の皆様、この度は JSAF チームの一員として本レガッタに参加する機会を頂き、誠に有難うございました。この貴重な経験を今後日本のセーリング界へ活かすべく略式ですがご報告をさせていただきます。

2. レース概要

- ・主催 Royal Yacht Squadron
- ・場所 英国ワイト島 カウズ
- ・期間 2019年9月25日～9月28日（公式練習1日、レース3日間）
- ・参加数 9か国12チーム（米国3チーム、英国2チーム） 詳細別紙リザルトにて
- ・使用艇 J70（12艇用意）
- ・レース方式 ラウンドロビン（総当たり）の後、ノックアウト方式で順位決定戦を行う（実際には時間の都合上順位決定戦は行われず）。
- ・アンパイア 3か国から10名（アイルランド1名、英国6名、米国3名）

3. レースレポート

- ・毎朝8時に RYC セーリングハウスにてブリーフィングが行われました。その他にも、インフォメーション、レースフォーマットの提示が行われました。
- ・その後、RYS から徒歩10分ほどにあるシェパードマリーナに行き、指定のボートを艀装しました。レース3日間を通してコンスタントに20knotを超える風が吹き、レース海面はワイト島のブランケに入る位置まで45分ほどかけてレース海面へ向いました。
- ・スタート3分前に準備信号、2分前の予告信号後に2対2のスタートシークエンスが始まります。レースは2対2のチームレースですが、実際には1対1のマッチレースの様相で、得点は1-2又は2-3で勝ち、1-4で負けとなります。理想は1-2逃げ切りですが、そのようなレースは殆どなく、レース展開が1-4、2-3の場合、1位のボートが3位のボートを蹴落とすアクションを起こす、レースはこれが繰り返されます。
- ・初日 成績 0勝4敗
風速20knotオーバー、ワンポイントリーフ。日本ではなかなか経験できないような強風の中で、マニューバリング中などにブローチングをするなど船を思うようにコントロールできず、レース序盤から相手にワンツーで先行されそのまま何もできないレースが続きました。
- ・2日目 成績 0勝4敗
風速20knotオーバー、ワンポイントリーフ。昨日とは異なり序盤から相手にワンツーで先行されることはありませんでした。JSAF チーム先行艇が相手チームを遅らせ

るアクションを取るも、強風下で最後まで相手をコントロールすることができませんでした。

・3日目 成績 2勝1敗

風速 20knot オーバー、ワンポイントリーフ。ラウンドロビンの残りを実施。今までの反省を活かし JSAF チーム先行艇が相手チームを完全にコントロール下に置き、まず2勝します。最終レースの最終成績2位の Royal Thames Yacht Club との対戦では、スタートでは先行するも体重の軽い JSAF チームはアップウィンドでビハインドがあり、徐々に遅れていき、敗北。時間切れのため、順位決定戦なし。最終成績 11位でレガッタを終えました。

4. ホスピタリティ

9月25日、ブリーフィング後に RYC クラブハウス内で夕食会。各チームメンバー、コミッティー、アンパイアとの交流を図りました

9月26日、レース後に夕食会。昨日とは異なる雰囲気のもとコース料理を楽しみながら、前日同様交流を深め、世界各国とのセーリング事情などについて情報交換を行い、視野を広げることができました。

5. 所感

- ・参加チーム 12 チームの内、多くのチームが昨年のチームレースレガッタに出場しており、昨年対戦したメンバーと再会を果たすことができました。昨年参加したチーム以外も日頃よりチームレース、マッチレースの練習をしているチームが多く、JSAF チームの経験不足を感じました。また、普段練習しているセーリングの艇種も多種多様で、シーズンを通して複数の艇種の練習をしていることも珍しくなく、日本とのセーリングにおける環境の違いを実感しました。
- ・日本で盛んなフリーレースに対して、チームレースはセーリングを知らない人から見ても勝敗が分かりやすい競技です。またマッチレースに比べても、最後まで勝敗が決しにくく、めまぐるしく入れ替わる攻防は非常に白熱するものであり、ハンドリング・スピード・ストラテジー・タクティクスのすべて凝縮された魅力的な競技といえるでしょう。また 1 レースごとの時間も短く、短時間で多くの事を学ぶことができるため、非常にセーリング教育的にも魅力的なように感じます。
- ・チームレースが日本で盛んにならない理由の一つとして、ほかの国に対してキールボートのセーラーが圧倒的に少ないことがあげられると思います。チームレースはディンギーでもできないことはないですが(実際広島では OP, スナイプを用いて開催されているます)、ジャッジが難しくなるといった理由のためか海外ではやはりキールボートでのチームレースが盛んです。日本ではジュニアから大学生にいたるまでのディンギーでの生活を終えたセーラーが、ディンギーでセーリングの道を終えてし

まうことが少なくありません。日本ではセーリングというとディンギーにピックアップされることが多いように感じますが、世界的にはそうではありません。世界ではディンギーでの活動を脚掛けにキールボートの世界へ踏み出し、マッチレースやディスタンスレースなど多様な活躍をするセーラーが日本に比べて圧倒的に多いように感じます。

- 日本においてキールボートが普及しない理由の一つとして、ヨットクラブが少ないことによるセーリングの多様性の欠如があるように思えます。今回参加したセーラーのほとんどが地元のヨットクラブに所属しており、今回交流する中で所属するヨットクラブはどこなのかと尋ねられることも少なくありませんでした。日本では競技種目、競技母体が世代によって一元化される傾向にあり、あまり多くの艇種に触れる機会がありません。しかし、多くの国では、国内にいくつものヨットクラブが存在し、そこでは老若男女がライフスタイルの一部としてそれぞれのニーズに合わせた多種多様なセーリング活動を行い、それぞれのヨットクラブによって多種多様なレガッタが開催されていました。このような多様性の欠如が、日本でキールボートの人口が海外に比べて少ないことや、チームレースが普及しない原因の一端を担っているのではないかと思いました。
- 最後になりますが、3日間を通して非常に強い風が吹くタフなコンディションの中で、66 レースをバイアスのない適正なコース設定でレース運営を行ったコミッティーと、10 名でレースを公平にさばいたアンパイアの仕事は素晴らしいものでした。競技をする選手は勿論のこと、コミッティーの運営能力、アンパイアのケーススタディーなど、それに関わる全ての関係者が成長できるのがチームレースだと感じました。日本のセーリングを多様化させ発展させてく中で、是非とも普及してほしいと思える世界でした。

RYS Global Team Racing Regatta 2019

2019 GLOBAL TEAM RACING REGATTA SCORE SHEET

Round-Robin One

Use "L" for a Loss in the table below.

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	OVERALL			
	BYC	DMTRA	NVYC	JSF	NHYC	RYS	RBVC	RCYC	SFVYC	RTVC	SSCBC	YCA	LOSSES	PENALTIES	TOTAL	POSITION
A			L			L		L	L	L	L		6		6	7
B	L				L			L	L	L			5		5	6
C		L						L		L			3		3	3
D	L	L	L		L	L		L	L	L		L	9	0.75	9.75	11
E	L		L					L	L	L			4		4	4
F		L	L		L			L	L	L			6		6	7
G	L	L	L	L	L	L		L	L	L	L	L	11		11	12
H					L			L	L	L	L		4	0.75	4.75	5
I			L										1		1	1
J									L				1		1	1
K			L	L	L	L			L	L		L	7		7	9
L	L	L	L		L	L		L	L	L	L		9		9	10
Number of Races Sailed													66			





